

ジュニア学芸員養成講座事業についての報告

若松 斉昭*

Report on the Junior Curator Training Course Project

WAKAMATSU Nariaki**

はじめに

令和7年度の単年度事業として、「ジュニア学芸員養成講座」事業を実施したので報告する。

本館では教育普及活動として様々な博物館講座(楽しい実験, 科学教室, 教職員向け講座など)を実施している。一方で, 年間を通してより深く自然を学ぶ機会を提供してほしいという要望や, ぜひ離島でも実施してほしいという切実な要望が従来から多く寄せられている。また, 探究的学習活動の高度化に伴い, 児童生徒や教職員から調査研究活動の方法に関する講座開設の要望が多く寄せられている。

そこで, 博物館に容易に来館できない離島の児童生徒が学芸主事とともに年間を通して郷土の自然を調査し, 自然科学を体験的に探究する講座を開設することとした。なお実施に際しては, 地域の自然特性を活かすことで郷土の自然をより深く学べる魅力的な講座とすることを旨とし, 本講座の成果を広く地域住民に発信する機会を設け, 受講生が地域のリーダーとして成長する一助となることも目指した。

実施地域の選定にあたっては, 単年度の事業ではあるが, 複数年度にわたって事業の効果が継続することを企図し, 翌令和8年度に移動博物館事業が予定されている南種子町を実施地域とした。

南種子町には, 本事業の趣意を御理解いただき, 共催事業として会場の使用や広報について全面的な協力をいただいた。

1 募集について

事業予算が承認されてすぐに, 南種子町立学校(小学校8校, 中学校1校)と, 県立種子島中央高等学校を訪問して募集案内(図1)の配布・掲示を依頼し, 児童生徒の参加に御協力いただけるようお願いした。その際に, 募集案内が堅苦しく, 特に小学生には講座の内容を理解するのが難しいとの御意見を頂いた。そこで, 各分野で具体的にどのような活動を行うのか

をQ & A方式で説明するチラシ(図2)を作成し, 後日各学校に送付した。

今回の講座は, 野外での活動を主体とする調査研究活動であるため, 募集対象を小学校5年生から高等学校2年生までとした。翌年度の移動博物館での活動も想定しているため, 高等学校3年生は除くこととした。申込みは4月8日から30日にかけて, 県の電子申請システム上で行い, 小学校5年生4名, 小学校6年生1名, 中学校1年生3名, 高等学校2年生3名の, 合計11名の応募があった。



図1 募集案内

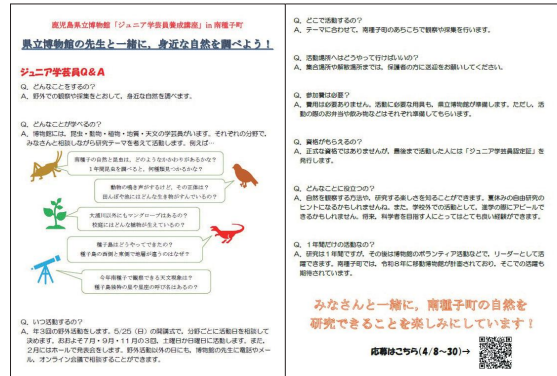


図2 案内チラシ

* 鹿児島県立博物館

2 事業のスケジュール

開講式を5月25日に行い、各分野で年間の活動計画を決めた。その後、それぞれの分野で3回の講座を実施し、2月1日には成果発表会と閉校式を実施した。

3 開講式

開講式は、南種子町中央公民館会議室にて行った(図3)。式では、南種子町の菊永俊郎教育長のあいさつと、本館の内祥一郎館長のビデオメッセージによるあいさつがあり、講師の紹介と受講生の自己紹介を行った。その後、各受講生が希望した5つの班に分かれて、探究するテーマや調査方法、日程について、担当の学芸主事と打ち合わせを行った。



図3 開講式の様子

4 活動の実際

各分野の3回の実施日と主な活動内容は表1に示す。受講生の調査地への移動は、保護者による送迎をお願いした。天候不良による実施日の変更などもあったが、おおむね計画通り実施することができた。活動の様子を図4・5に示す。



図4 茎永層群の観察(地質班)



図5 星空観察と星座解説(天文班)

表1 各分野の活動内容

	第1回	第2回	第3回
昆虫班	8/1 ・夜間の灯火採集 ・標本作成	9/27 ・昆虫採集 ・標本作成	11/23 ・水生昆虫採集 ・アサギマダラのマーキング
動物班	7/19 ・魚類、両生類の採集と観察 ・ヌマガエルの背中線調査	9/15 ・センサーカメラの設置 ・カエル種の同定	12/21 ・鳥類の観察
植物班	8/1 ・マングローブ分布調査 ・メヒルギの経過観察調査	8/28 ・メヒルギの花や根の観察 ・大浦川のドローン撮影	11/9 ・植物採集と標本作成 ・宮瀬川のドローン撮影
地質班	7/13 ・熊毛層群の観察 ・地質調査方法の学習	9/20 ・茎永層群の観察 ・地質調査の実践	11/22 ・増田層の観察 ・化石採集
天文班	8/9 ・南種子町の星空解説作成 ・星空解説実習	9/20 ・長谷公園での星空観察 ・望遠鏡の操作実習	11/16 ・星にまつわる郷土伝承調査 ・調査結果の発表

5 成果発表会

各班の成果発表は、令和8年2月1日に南種子町福祉センター大ホールにて、プレゼンテーションソフトを用いた口頭発表の形式で行った。

昆虫班は、昆虫の採集と標本の作製を行い、種子島産のカブトムシのオスは、本土産と比べて体が小さいほど角が有意に短いことを明らかにできたことなどを発表した。(図6)



図6 成果発表（昆虫班）

動物班は、畑に設置したセンサーカメラでシカを撮影することができたことや、多くの鳥類を観察したこと、ヌマガエルの背中線の有無を調べたことなどを発表した。(図7)



図7 成果発表（動物班）

植物班は、南種子町に4ヶ所あるマングローブのメヒルギを継続的に観察してその生育状況を明らかにし、周辺の植物の生育状況についても発表を行った。(図8)

地質班は、地層の観察や化石の採集をとおして種子島の成り立ちについて考えたことや、東海岸に点在する岩屋という海食地形と地質との関係性について考察したことなどを発表した。(図9)



図8 成果発表（植物班）



図9 成果発表（地質班）

天文班は、郷土に伝わる星の伝承を調べ、実際の星空のもとでの星空解説を行ったことなどを発表した。(図10)

6 閉講式



図10 成果発表（天文班）

成果発表会に引き続き、閉講式を行った。南種子町教育委員会の菊永俊郎教育長のあいさつ、県立博物館内祥一郎館長の講評に続いて、ジュニア学芸員認定証の授与を行った。(図11)

閉講式終了後は、教育長・館長・受講生の記念撮



図 11 ジュニア学芸員認定証授与

影(図 12)を行った。また、その後は各班の受講生と学芸主事、サポートして下さった家族と記念撮影をする様子が見られた。(図 13)



図 12 記念写真撮影



図 13 受講生や家族との記念撮影

7 まとめ

本事業は、博物館に容易に来館できない離島の児童生徒に、学芸主事とともに郷土の自然を体験的に探究する機会を提供することが大きな目的であった。受講生の学習意欲の高さや家族のサポートもあり、想定以上の成果を得ることができたと考える。一方で、

各班 10 名近くの応募者を想定していたにもかかわらず、2~3名の応募にとどまったことは、広報のあり方を含めて今後改善していく必要がある。

次年度は、南種子町で移動博物館の開催が予定されている。今回の受講生には、移動博物館内の郷土の自然コーナーで今回の成果を発表してもらおう予定である。

本事業を通じて、受講生が郷土の自然に対する興味関心を高めることができ、その活動の様子や成果発表をとおして、家族や友人、先生方、ひいては町民の方々が、自然観察や調査研究に関心を抱いていただけたと考える。

単年度の事業ではあったが、今回得られたノウハウは、今後の博物館活動に活かせると思う。

謝辞

本事業を実施するにあたり多くの御支援をいただいた南種子町教育委員会をはじめ、熊毛教育事務所の方々、県立種子島中央高等学校職員、サポートしていただいた受講生の御家族に、深く感謝申し上げます。